

超富裕層に ターゲットを絞れ!



消費不況と言われる中で、実は日本の富裕層市場が意外に堅調だ。キャッシュリッチが多い彼らにとって、09年の日本は「むしろ投資のチャンス」と考えられている。世界の名だたる企業も、その富裕層向けに絞り込んだ新サービスを続々と開始している。その最前線をレポート!

アジア最大! 日本の富裕層市場は健在だ

リーマン・ショックにも動じなかった「真の富裕層」

メディアで流される消費関連の情報では「日本は消費不況」にあり、「価格の引き下げ競争が続く」というたぐいの記事が圧倒的に多い。だが純金融資産1億円を超える富裕層市場は、リーマン・ショック後に多少の変化はあったものの、健在と見てよい。どこにそのような兆候があるのか――。

金融資産1億円以上が入会資格というオンライン・プライベートクラブ「YUCASEE」(ゆかし)を運営するアブラハム・グループ・ホールディングスの高岡壮一郎社長は次のように語る。

「いわゆる『プチ・リッチ層』とも呼ぶべき年収1500万円以上の層での『あこがれ消費』がはがれ落ちた部分は確かにあります。ただしYUCASEE会員の動向を見る限り、真の富裕層とも

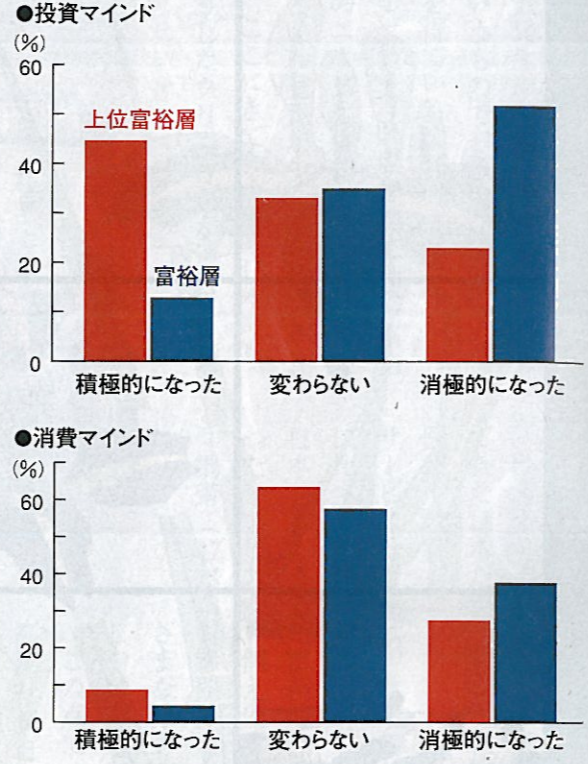
言うべき人たちは、逆に割安になった不動産などを購入できるチャンスと見えています」

昨年10月、リーマン・ショック直後に実施されたYUCASEE会員アンケート調査によると、投資マインドについては「積極的になった」が43・9%を占め、「消極的になった」(23・0%)の倍近い数字となった。同じ調査で消費マインドを見ると、「変わらない」が63・5%と圧倒的多数を占めていることがわかる。

「今、一般的に売り出し価格が5000万〜1億円のマンションは厳しいが、1億〜数億円のマンションは購入希望者が多い。また、1000万円以上の自動車や高級時計も売れています」(高岡社長)

日本の富裕層市場の層の厚さを裏づける資料がある。メルリッチ/キャップジェミニの資料(43ページ参照)によると、07年時点で調査したアジア地域の金融資産

リーマン・ショック後の富裕層マインドはどう変わったか



(注)「上位富裕層」数字は、純金融資産1億円以上が入会資格のYUCASEE会員アンケート(08年10月)。「富裕層」数字は博報堂「2008金融危機下の富裕層調査」(08年12月)で年収1500万円以上の個人。

1億円以上の資産家人口を調べたところ、実に54%が日本に存在するという。富裕層人口は07年で年率2%程度の低い伸び(中国では2割増)だが、「マスとしての150万人の富裕層の旺盛な消費・

「日本の富裕層について、『暇を



アブラハム・グループ・ホールディングスの高岡壮一郎社長。

「日本の富裕層について、『暇を

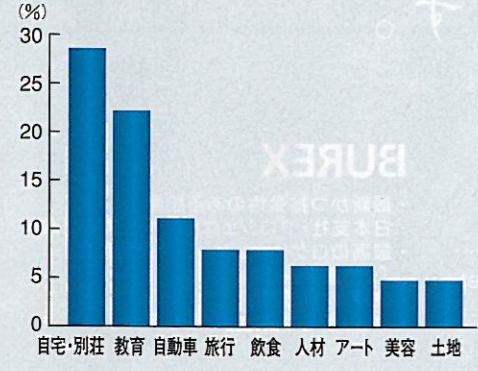
見ると、会社経営者のほか医師や弁護士などが3分の2を占める。このほか、高所得のある専門職の男女が結婚して資産形成したというケースもある。

期待されるサービス 関連市場の質的向上

富裕層である彼らは、独自の情報網を持っている場合が多い。一般メディアの報道とは異なり、現状の経済環境を新たなチャンスと見る層が少なくない。前出のYUCASEEのアンケート調査によると、「今最も欲しいもの(利用を含めて)」の1位は自宅・別荘という結果が出ている。これには複数の自宅や投資用物件も含まれているようだ。都心部でも地価が下がっていること、高級マンションでも価格が低下傾向にあることなど、キャッシュリッチな富裕層は、まさに買いのチャンス到来と見ているというわけだ。

注目されるのが、第2位に「教育投資」が入っていることだ。「富裕層の人たちを見ると、高い教育を受けている方が少なくありません。彼らは次世代に残せる

YUCASEE会員が購入(利用)を検討しているもの



のは「知識や知性」であって、その知識を伝えられる人間の頭脳こそ大切と考えています。お金を運用できる知識がなければ宝のもちぐされになるということです」(高岡社長)

このため、今後、30〜40代の富裕層ファミリーでは、幼稚園や小学校レベルからの教育投資がさらに高まりそうだ。また、インターナショナルスクールが文科省の認可を受けられるようになったこともあり、国際教育や海外留学に関連した市場の拡大が予想される。

このほか、医療分野では富裕層のニーズに合わせた人間ドックの登場が注目される。待たせず、顧客のプライバシーを尊重し、なお